

# オリンピック・パラリンピック教育に関する 実践的研究

佐々木 浩

## 1. 緒言

オリンピック・パラリンピック競技大会は、単なるスポーツイベントではなく、歴史的に見れば、開催国の人々や社会に「オリンピック・パラリンピックレガシー」とされる様々な良い影響をもたらしてきた。それは、競技力の向上や競技施設等の競技大会に直結したレガシーはもとより、社会に影響をもたらす有形・無形、計画的・偶発的な幅広いレガシーが挙げられる。1964年の東京大会では、国立競技場や首都高速道路、新幹線等のインフラが整備されるとともに、スポーツ少年団や体育の日といった今日では社会に広く浸透している枠組みが作られた<sup>(1)</sup>。そして、2020年東京オリンピック・パラリンピック大会（以下、「東京2020大会」）は、大会ビジョンを「スポーツには、世界と未来を変える力がある」と掲げ、「すべての人が自己ベストを目指し（全員が自己ベスト）」、「一人ひとりが互いを認め合い（多様性と調和）」、「そして、未来につなげよう（未来への継承）」を3つの基本コンセプトとし、史上最もイノベティブで、世界にポジティブな改革をもたらす大会<sup>(2)</sup>になることを目指しており、新たなレガシーの創出に期待が寄せられる。

また、大会開催に合わせて実施されるオリンピック・パラリンピック教育（以下、「オリパラ教育」）も、現在、スポーツの意義や価値等に対する国民の理解・関心の向上、障害者を含めた多くの国民の、幼少期から高齢期までの生涯を通じたスポーツへの主体的な参画（「する」、「見る」、「支える」、「調べる」、「創る」）の定着・拡大、児童生徒をはじめとした若者に対するこれからの社会に求められる資質・能力の育成<sup>(3)</sup>を目的として、レガシーの一つとしての重要な位置づけにある。オリパラ教育では、オリンピックたちのパフォーマンスを通して、高い目標を目指して努力していくことの尊さ、スポーツを通じての友情や尊敬、また、パラリンピックを通して障害などに関係のない平等な社会を形成していくことの重要性などを学ぶことができる<sup>(4)</sup>。したがって、オリパラ教育の実践による自己実現や、共生社会に向けての多様性の尊重、公平・公正及び公徳心の育成等は、これからの変化の激しい時代を生き抜いていく子供たちにとって大変重要であると考えられる。

一方、忘れてはならないものとして、オリンピック・パラリンピックが抱えている負の部分の問題がある。オリパラ教育では、光と影の両面に配慮したバランスのある批判力も子供たちに身に付けさせることが重要である<sup>(5)</sup>。つまり、理想やポジティブな面だけでなく、勝利至上主義における「ドーピング問題」をはじめとして、「スポーツ賭博」や「過度な商業主義」、そのほか「国籍問題」やボイコットにまで発展する「政治的・経済的問題」等国际的な課題にも目を向けさせ、光と影の両面から考えさせることが重要である。

このように、オリパラ教育は単にスポーツを学ぶだけでなく、人としての生き方をはじめとして、政治や経済、環境など様々な課題を含んだ社会の縮図<sup>(6)</sup>を学ぶことができ、学習教材としては計り知れない魅力的な価値を有している。筆者は以前、オリパラ教育の中のパラリンピックに焦点を充てた実践的研究を行い、対象者のパラリンピックに対する学習後の関心について報告した<sup>(7)</sup>。そこで、この度本研究では、「オリンピックの光と影について」と「スポーツを通じての人としての生き方について」に焦点をあてた授業実践を行い、その成果と課題を提起することにより、オリパラ教育という無形のレガシーに関してのさらなる議論の一助となることを目的とする。

## 2. 研究の方法

本研究では上記内容を踏まえ、中学生を対象に「オリンピックの光と影について」並びに「スポーツを通じての人としての生き方について」に焦点をあてた授業実践を行い、授業のまとめ時に記入した学習カードの分析からその成果と課題を考察する。

### 2-1. 対象と期間

- 対象：S区立S中学校3年生全学級（男子80名、女子68名、合計148名）。対象生徒は、前年度にパラリンピックについて学習をしている。
- 2017年12月1日に総合的な学習の時間の1単位時間として実施した。授業者は体育科教育を専門とする大学教員である。

### 2-2. 教材の内容

本研究の授業実践は、1単位時間（50分）で3年生全員（148名）を対象とした一斉学習（座学）である（図1）。



展開 33分	・ドーピング問題について学ぶ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>ドーピング問題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1970年代東ドイツ アメリカ、ソ連に次ぐスポーツ大国</li> <li>1976年第21回モントリオール大会 メダル90個(金メダル40個)</li> <li>1980年第22回モスクワ大会 メダル126個(金メダル47個) 特に陸上と水泳</li> </ul> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>ドーピング問題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東ドイツのドーピング 1960年代から約30年間続いた 国家の力を誇るためにスポーツを利用 女子の水泳と陸上を中心 13歳くらいから筋肉増強剤・男性ホルモン 副作用＝男性化、内臓疾患、精神疾患</li> </ul> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>ドーピング問題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他のスポーツでも存在する。</li> <li>社会全体の問題</li> <li>選手本人の意思でなくても服用する</li> <li>・ナショナリズムや商業主義の影響</li> <li>・多額の報酬がからむビジネスとして驚愕の報酬</li> <li>・犯罪も絡む</li> </ul> </div>
	5. 2020年の自分について考える。 ・映像を見る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>2020年の自分</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2020年東京オリンピックパラリンピック開催</li> <li>2020年は何歳？</li> <li>オリンピックにどのように関わっているか？ 高校3年生として 社会人として</li> </ul> <p style="text-align: center;">(選手？ボランティア？応援？)</p> </div>	・オリンピックやパラリンピアン の活動から自分の生き方につ いて考えるようにさせる。  ・自分の現状を振り返り、3年後 の自分に期待させる。	・東京2020大会のPR映像 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>2020年の自分</b></p> <p>○オリパラに直接かかわってなくても、オリハラを学んで 「どんな18歳になっているか？」</p> <p><input type="checkbox"/>社会に貢献/ボランティア精神</p> <p><input type="checkbox"/>スポーツを愛好/健康志向</p> <p><input type="checkbox"/>人生に前向き/何事もあきらめない</p> <p><input type="checkbox"/>多様性を尊重/思いやりの心</p> <p><input type="checkbox"/>国際理解/国際親善 などなど</p> </div>
まとめ 5分	6. 学習を振り返る。 ・心のバリアフリーについて考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>心のバリアフリー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「世界のクニエダ」</li> <li>国枝慎吾:車いすのプロテニスプレイヤー</li> <li>パラリンピックシングルス優勝2回、ダブルス優勝1回</li> <li>全豪OP優勝8回、全仏OP優勝6回、全米OP優勝6回、年間グランドスラム5回、シングルス107連勝(ギネス記録)</li> <li>・ロンドンのパスの話</li> </ul> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>心のバリアフリー</b></p> <p>・国枝慎吾:車いすのプロテニスプレイヤー</p>  </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>さいごに</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パラリンピックのプロモーション映像</li> <li>イギリスのテレビ局「Channel 4」が作成</li> <li>・「We're The Superhumans」</li> <li>・「Yes, I Can. Yes, I Can. Yes, I Can」</li> <li>・「誰にだって、できないことなんて何もない」</li> </ul> </div>
	・映像を見る。 ・学習カードを記入する。	・障がい者の日常の姿から、今後の自分の生き方のヒントが得られるよう助言する。 ・義足とメガネは一緒 <sup>(1)</sup> と思えるように。	・イギリスのテレビ局 channel4 作成の映像 「We're The Superhumans」

図1 学習指導案

### 2-3. 授業の実際

本実践は、「オリンピックとパラリンピックが教えてくれるもの」を学習のテーマとしながら、その中でねらいを2つ設定して展開する。一つ目のねらい「オリンピックの光と影」では、華々しいアスリートの活躍の陰には、政治やドーピングなど様々な影が潜んでいることを学ぶ。また、2つ目のねらい「スポーツを通じて人としての生き方について」では、東京2020大会が開催される時、自分はどんな18歳になっているか、オリンピックやパラリンピアンが努力する姿を通じて、今後どんな生き方をするかを学んでいく。

授業の「導入」部分では、最初に既習事項（パラリンピックについて）を振り返り、

努力することの素晴らしさや人間の可能性について確認する。次に、本時の2つの学習のねらいを確認し、IOCが示すオリンピックの3つの価値と、IPCが示すパラリンピックの4つの価値にふれて、オリパラの学習としての価値を知る。そして、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックのダイジェスト映像を視聴し、学習意欲を喚起させ導入につなげる。

「展開」の前半部分では、まずオリンピックには光と影の部分があることを押さえ、一つ目のねらいに迫っていく。影の部分の一つである政治問題については、生徒たちにとってテーマが非日常であり難しい内容とも考えられるので、三択クイズを導入し関心を保ちながら学習を進める。次に、アマチュアリズムとドーピング問題について触れ、特にドーピング問題に関しては、政治問題もからめその課題の大きさについて強調する。

「展開」の後半部分では、「2020年の自分について考える」と題し、最初に東京2020大会のPR映像を視聴し、二つ目のねらいに迫るきっかけをつかませる。次に、これまで学習してきたオリンピックやパラリンピアンたちの努力を振り返り、あきらめないことの大切さや限界に挑戦することの尊さ、誰にだってやればできるという気持ちを醸成させる。そして、自分のこれまでの生活を振り返らせ、今後の生き方について考えながら3年後の自分に期待を寄せる。

授業の「まとめ」の段階では、学習を振り返るとともに車椅子のプロテニスプレイヤーである国枝慎吾選手について触れ、「心のバリアフリー」について考える。そこでは、「義足とメガネは一緒」と思えるように少しでも障害に対する偏見をなくしていけるよう助言する。そして最後に、イギリスのテレビ局channel4作成のパラリンピックプロモーション映像「We're The Superhumans」を視聴し、障がい者の日常の姿から、今後の自分の生き方のヒントが得られるよう助言し、授業をまとめる。

### 3. 結果と考察

授業の「まとめ」として、学習カードを用いて本授業の振り返りを行った(表1)。設問1～6までは男女別に、設問7～9の自由記述に関しては、同じ意味と読み取れる内容毎に男女別に集計した(図2, 3, 4, 表2, 3, 4)

その結果、設問1「わかりやすかったか」、設問2「ためになったか」に対しては、全体で85%以上が「はい」と答え、特に女子はいずれも95%以上が「はい」と答えていた(図, 2, 3, 4)。このことから、本授業の実践は、生徒たちに好印象であったことが

推察できる。これは、設問9（全体の感想）の記述にも表れており、「オリパラのことがよく分かった、興味を持った」、「映像がよかった、感動した」と多くの生徒が述べていた（表4）。またこの回答から、今回の教室における一斉学習では、映像の活用が効果的であったことが分かった。

設問3「オリンピックやパラリンピックをもっと知りたくありませんか」では、全体で70%以上が「はい」と答えた。特に女子は90%近くが「はい」と答える結果となった（図3, 4）。関連して、表4の結果からも、生徒たちはオリパラの両方に関心を寄せたことがわかり、本授業の実践をきっかけとして、多くの生徒たちがオリパラについての学びを深めていくことが期待される。

設問4, 5「オリパラの観戦」については、やはり手軽なテレビでの視聴が高い回答を示し、全体で約90%を占めた。実際に競技場に足を運びたいと答えた生徒は、全体で約70%であった（図4）。一方で、パラリンピアン活躍や前向きな努力する姿に感動を覚えた生徒もいることから（表4）、本授業をきっかけとした今後のパラリンピックへの関心の高まりが期待できる。

設問6「ボランティア」に関しては、「はい」と答えた生徒は女子では70%以上いるが男子は40%以下であり、全体でも約54%であった（図2, 3, 4）。このことは、東京2020大会の組織委員会に所属する正式なボランティアを行うには、年齢が達していないことも一つの要因として考えられる。しかし、表2の自由記述に3年後の自分は、「オリパラに関わりたい」「オリパラに興味を持っている」との記述が見られることから、生徒たちの関心の高さは確認できる。

設問7「2020年の自分はどんな自分か」の自由記述では、本授業のねらいの一つである「スポーツを通じて人としての生き方について」が、どの程度生徒の心に届いているかを読み取ることができる。その結果、「受験をがんばっている」「夢に向けて努力している、前向きに生きている」「スポーツ・部活動を頑張っている」といった、高校3年生という具体的な自分をイメージして、その置かれている立場で目標に向かって頑張っている自分を108名（約74%）の生徒が記述していた。中には実際に「オリンピックに出ている」と回答した生徒もいた。自身の生き方に対して、ポジティブな思考になっていることが推察できる。また、先述の通りオリパラに興味をもって、何らかの形で関わりたいと考えている生徒もいた（表2）。

設問8「授業で分かったこと、学んだこと」の自由記述では、本授業のもう一つのねらいである「オリンピックの光と影について」に関しても併せて読み取ることができる。

この質問紙には、「最も分かったことを一つ」という記述はなかったが、殆どの生徒が一つの内容について回答していた。その結果、63名(約43%)の生徒がねらい①「オリンピックの光と影について」に関して記述し、80名(約54%)の生徒が、ねらい②の「人としての生き方」について記述していた(表3)。ねらい②の回答数が多くなったことは、学習者が中学3年生という多感な時期であり、各自受験を控え自分を見つめなおすタイミングであったということが一因ではないかと思われる。いずれにしても、生徒たちは本授業の2つのねらいに対して、主体的に考え前向きにとらえることができたといえる。

設問9「授業全体の感想」でも、本授業の2つのねらいについての記述を読み取ることができる。また、この授業を通して多くの生徒がオリパラに関心を抱き、東京2020大会を楽しみにするようになったことがわかる(表4)。

表1 学習カード

「オリンピック・パラリンピックを学ぶ3」の授業について	
1. 授業はわかりやすかったですか	(はい・どちらでもない・いいえ)
2. 授業はためになりましたか	(はい・どちらでもない・いいえ)
3. オリンピックやパラリンピックをもっと知りたくなりましたか	(はい・どちらでもない・いいえ)
4. オリンピックやパラリンピックをテレビで見たいですか	(はい・どちらでもない・いいえ)
5. オリンピックやパラリンピックを競技場で観戦してみたいですか	(はい・どちらでもない・いいえ)
6. オリンピックやパラリンピックでボランティアをしてみたいですか	(はい・どちらでもない・いいえ)
7. 2020年の自分はどんな自分ですか	(自由記述)
8. この授業で分かったこと、学んだことはなんですか	(自由記述)
9. この授業全体の感想を記述してください	(自由記述)

オリパラを学ぶ(男子) n=80

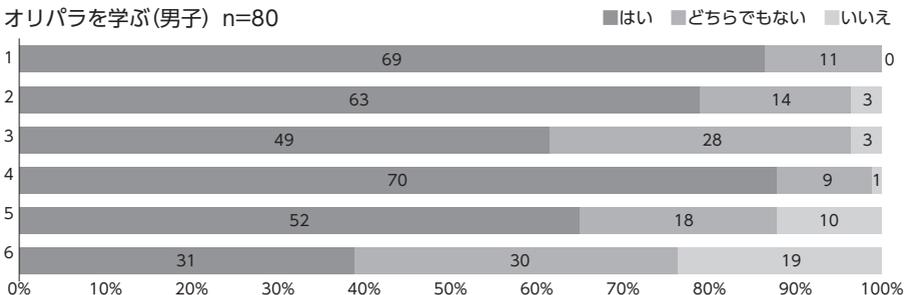


図2 学習カード集計結果：男子(設問1～6)

オリパラを学ぶ(女子) n=68

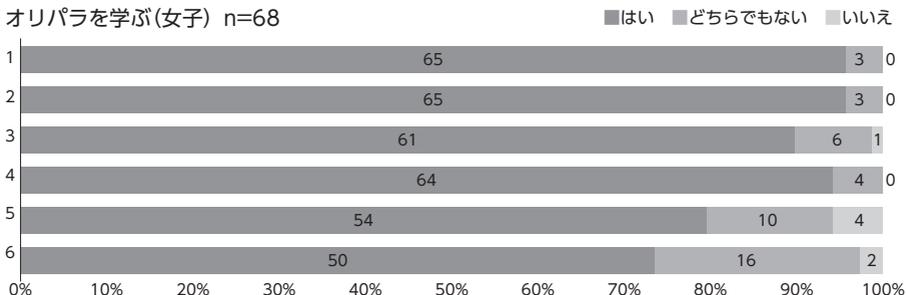


図3 学習カード集計結果：女子（設問1～6）

オリパラを学ぶ(全体) n=148

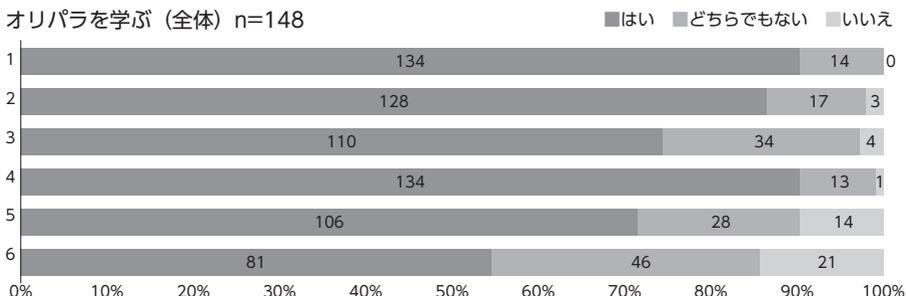


図4 学習カード集計結果：全体（設問1～6）

表2 設問7集計結果

設問7：2020年の自分はどんな自分か	男	女	合計
受験をがんばっている	27	25	52
夢に向けて努力している、前向きに生きている	12	18	30
スポーツ・部活を頑張っている	11	15	26
オリパラに関わりたい(含：ボランティア)	9	11	20
オリパラに興味を持っている	7	6	13
オリンピックに出ている	2	0	2

表3 設問8集計結果

設問8：授業で分かったこと、学んだこと		男	女	合計	
ねらい①	オリンピックには光と影があること	23	18	41	63
	オリンピックと政治問題	7	7	14	
	オリパラのこれまでの軌跡	2	4	6	
	オリンピックと経済効果	2	0	2	
ねらい②	あきらめない心、頑張れば道は開くこと	17	24	41	80
	オリパラの価値や意義・影響力	9	8	17	
	差別をしない心	11	5	16	
	スポーツから得る感動	2	4	6	

表 4 設問 9 集計結果

設問 9：授業全体の感想	男	女	合計
東京 2020 大会が楽しみ、関心を持った	22	28	50
光と影の部分を知り考えさせられた	13	15	28
オリパラのことがよく分かった、興味を持った	15	11	26
映像がよかった、感動した	11	15	26
自分も努力する、前向きに生きる、挑戦する	13	7	20
オリパラのすごさやよさに感動した	5	12	17
心のバリアフリーが大切だということ	7	4	11
パラ選手の前向きさがカッコいい	2	8	10

#### 4. まとめ

本研究は、「オリンピックの光と影について」と「スポーツを通じての人としての生き方について」に焦点をあてた授業実践を行い、その成果を考察することにより、オリパラ教育という無形のレガシーに関してのさらなる議論の一助となることを目的とした。

オリンピック・パラリンピックは、スポーツの文化的・教育的機能を通じ、人々が「人生で大切なことは何か」「そのために必要な行動はどのようなものか」を考える機会を提供<sup>(12)</sup>してくれる。特に、我が国においては、健康長寿社会、思いやりや正義感に富んだ社会、平和と友好に満ちたグローバルな共生社会等の構築が求められている中で、オリパラ教育は、スポーツの価値や効果の再認識を通じて自己や社会の在り方を向上させることにより、国際的な視野をもって世界の平和に向けて活躍できる人材を育成するといわれており<sup>(13)</sup>、このことは教育が目指しているものに非常に近いものがあると考えられることができる。

本研究の授業実践で、対象の中学 3 年生の生徒たちは、オリンピックの光と影の両面についての学びを通して、光の大きさと比例して大きくなっていく影の部分に対して、素直に懸念を抱き、スポーツの持つ本来の純粹さの必要性を感じとることができた。今回、光と影という多少重たいテーマでも、中学 3 年生にとっては関心をもって学習に取り組むことができるとということが分かった。また、オリンピックに影の部分があるということを知ることにより、今後オリンピックそのものを多面的に見ることができるのではないかと考える。さらに、オリンピックとパラリンピックの自らの可能性を極める限りない努力や、特にパラリンピックの「失ったものを数えるな、残された機能を最大限に生かせ」といった、ポジティブシンキングな実践力からうけた強い感動は、生徒たちに、これまでの自らの行動を振り返らせ、今後の己の生き方に対して大きなヒン

トを与えたに違いない。くわえて、今回、その生徒たちに大きな感銘を与えた要因として、オリパラ関連の映像の活用が挙げられる。やはり、座学として大勢の一斉学習形態では、学習者に視覚的に訴えかけることは効果的であったといえる。

オリンピックやパラリンピックには、スポーツのみならず人生そのものを考えるための宝がたくさん詰まっていると思われる。スポーツとは何かを知的に理解できる小学校高学年から中学校・高等学校にかけて、座学として教室で体系的にオリパラ教育を学ぶことは、単にスポーツをプレイするよりも、もっと重要で奥深い教育的意義をもたらす<sup>14)</sup>と考えられる。したがって、今後オリパラ教育は、東京2020大会のためにイベント的に実施されるのではなく、学校の教育課程の中に意図的に位置付け、座学と実際に動き体験することの両面を通して積極的に実践されることが重要であろう。

今回、本研究は、対象が中学3年生であった。したがって、今後は研究対象を小学生に広げ、さらには学習が単発に終わらない手立ての一つとして、家庭との連携も視野に入れた研究の推進が課題と考える。

#### 注

- (1) スポーツ庁オリンピック・パラリンピック課 (2017). オリンピック・パラリンピック教育の推進について. 初等教育資料2月号通巻949号. 東洋館出版社:東京. pp.6-9.
- (2) 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 HP. <https://tokyo2020.org/jp/> (2018年11月12日閲覧)
- (3) オリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議 (2016). オリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて最終報告. スポーツ庁. [http://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/shingi/004\\_index/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2016/07/29/1375094\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/004_index/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/07/29/1375094_01.pdf) (2018年11月9日閲覧)
- (4) 真田久 (2017). オリンピック・パラリンピック教育の意義と価値. 初等教育資料2月号通巻949号. 東洋館出版社:東京. pp.10-15.
- (5) 榎本直文 (2012). 「オリンピック教育」の今日的課題. 体育科教育. 第60巻第7号. 大修館書店:東京. pp.14-17.
- (6) 吉中孝志・海野勇三 (2009). 実践記録:中学校体育科におけるオリンピック教育の試み. 山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第27号. pp.59-70.
- (7) 佐々木浩 (2018). オリンピック・パラリンピック教育実践に関しての一考察. 初等教育論集第19号. pp.42-58.
- (8) 東京都のオリパラ教育に対する取り組みは「4×4の取組」と言われ、「オリンピック・パラリンピックの精神」と、オリンピックムーブメントの3つの柱「スポーツ」、「文化」、「環境」を合わせた4つのテーマと、それに関わる「学ぶ(知る)」「観る」「する(体験・交流)」「支える」

の4つのアクションを組み合わせている(図9)。



図9 「4×4の取組」の展開イメージ(東京都教委員会)

- (9) ・卓越 (Excellence) : より高い目標を目指して努力すること  
 ・友情 (Friendship) : スポーツを通して得られる友情や絆  
 ・敬意/尊重 (Respect) : ルールの尊重とフェアプレイ徹底, 支えてくれる人々に対する敬意  
 公益財団法人日本オリンピック委員会 web サイト参照 <https://www.joc.or.jp/olympism/olympian2008/index2.html> (2018年11月18日閲覧)
- (10) ・勇気 (Courage) : パラアスリートの挑戦への勇氣  
 ・決断力 (Determination) : 物ごとを前向きに進めていく上での決断  
 ・平等 (quality) : 障害のあるなしに関係のない平等な社会を目指す  
 ・鼓舞 (Inspiration) : 高いパフォーマンスを目指すパラアスリートの活躍が, 人々を勇氣付け感動させる  
 日本パラリンピック委員会 web サイト参照. <http://www.jsad.or.jp/paralympic/what/index.html> (2018年11月18日閲覧)
- (11) 高橋明 (2010). 障害者とスポーツ. 岩波新書. 岩波書店: 東京. pp.47-50.
- (12) 來田享子 (2012). ロンドンオリンピックが持つ教育的価値を掘り起こす. 体育科教育. 第60巻第7号. 大修館書店: 東京. pp.10-13.
- (13) スポーツ庁オリンピック・パラリンピック課 (2017). オリンピック・パラリンピック教育の推進について. 初等教育資料2月号通巻949号. 東洋館出版社: 東京. pp.6-9.
- (14) 友添秀則 (2012). いま, なぜ体育理論でオリンピックを教えるのか. 体育科教育. 第60巻第7号. 大修館書店: 東京. p.9.